

天草市 1人1台端末の利活用に係る計画

1 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現をめざす学びの姿

変化の激しい時代の中で生きていくためには、生涯にわたって自ら学んでいくことが必要となる。本市では、教育委員会グランドデザインに『子どもを主体とした授業改善とクラウド活用の推進』を掲げ、1人1台端末とクラウドを活用することで「生涯にわたって自ら学びを進めていくことができる児童生徒の育成」をめざしている。児童生徒一人ひとりが自分で学びを進めていく姿とは、例えば、自分のペースで納得のいくまで課題に取り組んだり、学んだことを自分なりの工夫で表現したり、新たな課題を発見したりしながら学んでいく姿である。つまり、児童生徒に何をどのように学ぶかが委ねられている状態である。

1人1台端末やクラウド環境があれば、多くの情報の中から自分が必要とする情報を収集し、整理・分析し、自分の考えをまとめて表現することができる。また、友達の学び方を参考にしたり、友達の考えを知ったりすることで直接相談することもできる。このように1人1台端末とクラウドを活用した環境の中で、個別最適な学びと協働的な学びにより、「生涯にわたって自ら学びを進めていくことができる児童生徒の育成」をめざす。

2 GIGA第1期の総括（令和5年度まで）

令和3年4月に端末を児童生徒に一斉配備した。また、各校の無線LAN環境を整備するため、従来は学校から拠点サーバー間を100Mbpsのメディアコンバータを使用し接続していたが、1Gbpsのものに取り換え、さらに、センターサーバーからインターネットへの回線を1Gの複数回線（ビジネスタイプのベストエフォート型）に増強して、安定した通信が確保できるよう環境整備をしてきた。

コロナ禍の休校では児童生徒に自分で学ぶ力につけることができていないことを実感した。そこで、生涯にわたって自ら学び続けることができる児童生徒の育成をめざし、1人1台端末とクラウド環境導入後は、まずは、新たな環境をとにかく使ってみるという意識で活用を推進した。まずは、モニターに拡大提示すること、資料を配付・提出すること、ネットでの検索、教師作成のデジタルワークシートに入力することなどからスタートした。

端末活用を推進するために、研究推進校を指定して発表会をしたりICT活用講習会を開いたりした。「GIGAスクール部会」という学校職員チームを作り『天草市学び方ガイドブック』の作成もした。しかし思うように活用は進まなかった。令和4年度は「GIGAスクール部会」メンバーの公開授業を年間8回行った。そのことをきっかけに公開授業参加者から少しずつ端末活用が広がっていった。しかし、端末は必要ないと思っている教職員や、苦手だからと避ける教職員の意識改革は難航した。

令和4年度末、本市教職員が他県の先進地域の授業を視察する機会を得た。子ども達一人ひとりが、自分の課題をもち、自分のペースで学習を進めて、端末は学習基盤となっている授業光景に大いに刺激を受けて、学習者主体を意識した授業改善が急速に進んでいった。クラウドを活用することで、お互いの学習の様子がわかるようになったことが、児童生徒の学びを助けることになった。クラウド活用によってお互いの活動の途中の様子が見られるようになったこと（他者参照、進捗状況シート）で、どのように取り組めばよいのか迷った



写真1 話を聞きに行く様子

ときのヒントにしたり、自分と同じ考え方や違う考え方を知ることで、自分の考え方をさらによりよくするきっかけとなったり、さらに、意見をより詳しく聞きたい友達のところにいって直接話をする（写真1）など、複線型の授業の中で個別と協働が共存していくこととなった。（図1）

同時にチャットを活用することにより、児童生徒の情報量は増え、協働的な学びはさらに促進された。このように、ある場面だけ使うのではなく、日常的に1人1台端末とクラウドをフル活用することで、自分で学びを進めることができるようにになってきた。

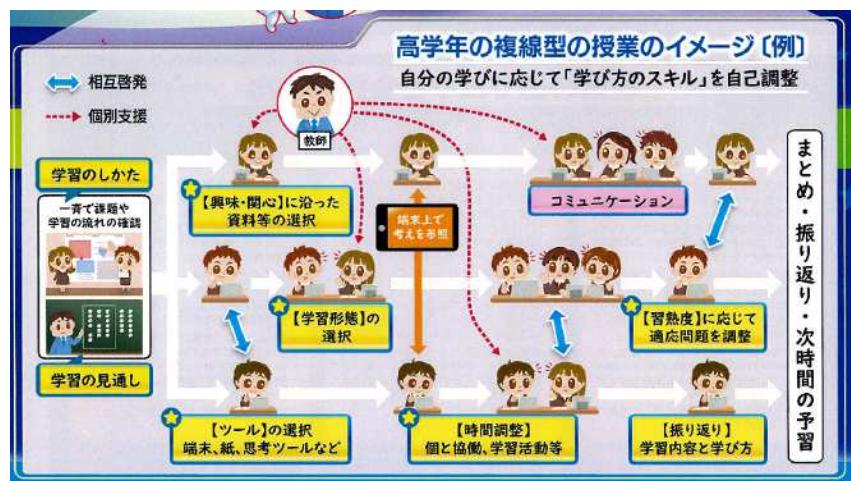


図1 複線型授業イメージ

このような取組を行ってきた本市での活用状況調査の結果は次のとおりである。まず、令和6年4月に実施された全国学力・学習状況調査の学校質問紙におけるICT活用に係る項目で、「週3回以上活用している」と回答した学校の割合である。

	本市	全国
教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会がありますか。	96%	93%
前年度に、教員が大型提示装置等（プロジェクター、電子黒板等）のICT機器を活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか。	93%	92%
調査対象学年の児童生徒が自分で調べる場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか。	77%	73%
調査対象学年の児童生徒が自分の考えをまとめ、発表、表現する場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか。	77%	54%
調査対象学年の児童生徒が教職員とやりとりする場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか。	73%	58%
調査対象学年の児童生徒同士がやりとりする場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか。	73%	43%
調査対象学年の児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか。	37%	48%
児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度家庭で利用できるようにしていますか。	13%	41%

前年度を比較すると、活用率は大幅に向上した。特性や理解度・進度に合わせた課題に取り組む場面での活用と端末持ち帰りについては今後重点的に取り組んでいく。

次に、令和6年12月に本市で実施したICT活用状況調査結果は次の通りである。

	本市
端末及び学習支援アプリ等を使用して授業を実施している教職員の割合	98.9%
端末及び学習支援アプリ等の使用を通じて、以前と比べ自分自身の授業観や学習観、モチベーション等に変化があったと感じる教職員の割合	71.4%
端末及び学習支援アプリ等の使用を通じて、以前と比べ児童生徒の学習に向かう様子に変化があったと感じる教職員の割合	81.8%

ほとんどの教職員（98%以上）が実践的に活用している。そして、多くの教職員が教師自身の変化、子どもの変化を感じていることが分かる。

3 1人1台端末の利活用方策

（1）個別最適な学び、協働的な学びの一体的な充実を目指して

GIGA第1期の1人1台端末とクラウド環境を引き続き維持していく。1人1台端末環境の日常的な活用はほぼできているが、個別最適な学び・協働的な学びの充実については、まだ達していない学校がある。これを実現する手立てとして、市内先進校の視察の機会を増やしていく。本市には、文部科学省のリーディングDXスクール指定校が2校あり、市指定の研究推進校も8校ある。これらの学校では、先進的な実践や研究を進めており、個別最適な学び・協働的な学びが充実したことで、自ら学ぶ児童生徒の育成が進み始めている。令和6年度は12回の公開授業を実施したが、次年度も引き続きこれらの学校での授業を管理職及び市内全教職員に向けて公開することにより、教師自身が主体的に学ぶことができるようになら。

また、校内でのチャットを使った実践共有、児童生徒と同じ環境を使った教員研修の充実に取り組んでいく。これらにより、市内すべての学校で個別最適な学び・協働的な学びを実現できるようにし、自ら学ぶ児童生徒の育成を進めていく。

（2）学びの保障のために

個別最適な学び・協働的な学びは、児童生徒のコミュニケーションが良好である必要があり、前提としての人間関係づくりは今まで以上に重要であると考える。そのためにも心の健康観察や教育相談等での端末活用を推進していく。

特別な支援を要する児童生徒の実態等に応じて端末を活用する支援については、活用が増えてきている状況である。書くことや自分の考えを発表することが苦手な児童生徒が、1人1台端末とクラウドを活用しキーボードで入力することで自分の考えを表現したり、画面を通して自分の考えを発表したりすることができるようになり、学習意欲・効果が向上した例が多く見られる。1人1台端末やクラウドによって支援できることについて、保護者への丁寧な説明をしていく必要がある。このように学びの保障についても、市内すべての学校で実現することを目指していく。

（3）デジタル学習基盤を支えるために

令和7年度は、GIGAスクール部会のメンバーで情報活用能力育成のためのカリキュラムの作成を計画している。

端末持ち帰りについては基本的なルールのベースになるものを教育委員会から提示し、学校独自のルールを作成して持ち帰り学習が少しずつ増え始めている。これからも各校の状況を確認しながら継続していく。

なお、このような活用を進めるためには、支援体制の充実が重要である。本市のICT支援員は、令和6年度は6人を配置しており、一校当たり月3～4回、支援を行うこととしている。今後もこの体制を維持していく。